

## はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが令和5年5月8日付で「新型インフルエンザ等感染症（2類相当）」から季節性インフルエンザと同じ「5類」へと変更になり、1年以上が経過しました。この間、人の往来が増え、人々の行動範囲も広がり、日常生活が戻るなかで、改めて「健康」の重要性を実感したのではないのでしょうか。

また、人生100年時代と言われ、平均寿命が延び、健康寿命が延びていますが、この健康寿命をどうしたらさらに延伸させることができるかが重要です。健康寿命を延伸することにより、より充実した人生を過ごすことが可能と思います。

「健康」に関して本市の取り組みとして、『第6次 碧南市総合計画』のなかの、「施策分野2 人と文化が育ち・支え合うまち」、「基本施策10 健康・医療」において、①生活習慣病の予防とライフステージに合わせた健康づくり、②地域全体で進める健康づくり、③安定した市民病院の経営基盤の確立、④市民病院における入院環境の整備、⑤新たな感染症への対策の5つの柱を立てて、各ライフステージにおいて健康増進に向けた取り組みを進め、すべての市民が健康でいきいきとした生涯を過ごすことができる環境を目指しています。

さらに、健康寿命の延伸を目指した『へきなん健康づくり21プラン（第二次）』を策定し、妊娠、出産期から高齢期までの幅広い世代における市民の健康管理・健康づくりを支援しています。

健康づくりの取り組みは、昭和42年に発足しました、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護師会、保健所、各種団体、市民及び行政が一体となった『碧南市健康を守る会』による、いわゆる市民ぐるみの健康づくりへの取り組みが重要な役割を担っています。これら関係機関の密な連携・協力により本市の保健事業が着実に実施され、市民の健康が図られています。

ここに、「令和5年度保健センター年報」が、関係各位のご協力で発刊できましたことに感謝を申し上げますとともに、本年報を今後の保健事業の参考として活用していただければ幸いです。

令和6年9月

碧南市長  
小池友妃子

## 緒 言

昭和57年現在の地に新しく設置された保健センターでの業務が開始され早42年が経ちました。このセンターでは乳幼児の健診や幼小児の集団予防接種のみならず、毎週水曜日と木曜日の人間ドック実施、さらには3階の医師会診療所で小規模事業所を対象とした職場健診も担って来ました。1階には市の健康課があり、全ての市民の各種相談をはじめ、センター業務の受け付けやその他センター事業の取りまとめを行って来ました。40数年を経て大きく変わったこと。それはやはり予防接種の個別化に伴いセンターでの集団接種がなくなったことです。

さて、平成12(2000)年2月に国が施策した「健康日本21プラン」に基づいて当市でも第一次「へきなん健康づくり21プラン」が策定されました。これは、21世紀において日本に住む一人ひとりの健康と、実り豊かで満足できる人生を実現するための国民健康づくり運動です。次年度は10年に1回の計画の見直しにあたる第三次計画の策定が予定されています。この施策に基づいて各種事業が行われ、年とともに変化する医療・介護・福祉に対してはその都度各種事業の改変も求められ事業も増えることにより、センター(健康課)の行う業務は増える一方です。この42号を見れば、当初の年報と比較して冊子の厚さが明らかに増していることが分かりますが、その分センター業務の増加が理解できます。

ところで、当市が抱える健康問題として大きいのは、メタボリック症候群への対応と考えます。既に平成16年頃から衣浦東部保健所管内の他市と比べて碧南市の糖尿病予備軍と糖尿病患者数が多いことが知られています。糖尿病は生活習慣病の中でも特に重要な疾患であり、我が国においても現在その数は増加の一途をたどっています。糖尿病患者数が多いことはがんになり易いとも言えます。当市高齢者の肺がん発見率の高さや膵臓がんの死亡者数が少なくないことをみれば、この点大きな健康問題と断言できます。このことは健康を守る会50周年を記念して発刊した「碧南市の健康カルテ」でもコメントしていますが、何故この様な状況になったのかを真に解明することが今後に向けた重要課題と思います。

新型コロナウイルス感染症が昨年、感染症法上の5類に移行してから感染者数や重症化は減じてきていますが、今後また新たな感染拡大が来る可能性はないとは言えません。その場合、また予防接種の問題も生じ、発熱外来やPPE(個人防護具)の備蓄・配布の問題、さらには予防接種の接種率や副作用への対応も必要になる

と考えます。その他予防接種の問題として、子宮頸がん発症に密接に関わるヒトパピローマウイルスの感染予防ワクチン接種率が低いことも挙げられます。今後この点につき如何に正しい情報をお伝えし啓発して行くかも大事な課題です。そして、何より市民全体の命に関わる重要な問題としては、近い将来起こる可能性が高い「東海あるいは東南海トラフ巨大地震」対策です。ここ数年会議の開催はあっても決して実のある成果が上がっているとは言えず、今後新保健センター建設の問題も含め四師会と行政との一層密なる連携が望まれます。

終わりにあたり、本紙発刊に際して大変ご尽力いただいた市健康課職員の皆さまに深謝いたします。

令和6年9月

碧南市健康を守る会 会長 山中 寛紀